

大学史展示室 特集展3

通学手段のうつりかわり

— 路面電車から地下鉄へ —

会 期 平成17年10月17日(月)～平成18年3月31日(金)

場 所 駒澤大学禅文化歴史博物館2階 大学史展示室

主 幹 駒澤大学禅文化歴史博物館大学史資料室

大正2(1913)年に駒澤大学の前身、曹洞宗大学が駒沢村に移転しました。この当時、曹洞宗大学の教職員や学生の重要な足であったのが玉電でした。玉電は、玉川電気鉄道の略称で、現在の国道246号線上を走る路面電車でした。昭和39(1964)年の東京オリンピック以降、自動車激増の波に押され、昭和44年に玉電は廃線となりました。

一時期、駒大の通学手段はバスに変わりましたが、昭和52年に地下鉄の新玉川線が開通し、路面電車から地下鉄に変わりました。平成12(2000)年、新玉川線も「田園都市線」に改称されました。

今回、特集展3「通学手段のうつりかわり」として駒大の通学手段について、玉電から田園都市線までの歴史とともに振り返ります。



玉電と駒大生 昭和12(1937)年

I 玉電と駒大

明治40(1907)年、渋谷―玉川間に玉電が開業しました。「玉電」とは、玉川電気鉄道の愛称です。大正2(1913)年、日ヶ窪にあった曹洞宗大学は駒沢の地へ移り、「駒澤大学」として新たな一歩を踏み出してからというもの、玉電は駒大に通う学生や教職員の重要な足でした。昭和39(1964)年の東京オリンピック以降、国道246号線の交通量の急増にともない、昭和44年に玉電は廃止となりました。

このコーナーでは、駒沢移転から玉電廃止までの駒大と玉電に関する資料や写真を紹介します。

【展示資料】

- I-1 戦前の通学風景 昭和12(1937)年
- I-2 玉電駒沢駅(渋谷方面乗り場) 昭和30年代 世田谷区郷土資料館蔵
- I-3 玉電駒沢駅(二子玉川方面乗り場) 昭和30年代 世田谷区郷土資料館蔵
- I-4 玉電花電車 昭和44(1969)年 埼玉県 早船元峰氏蔵
- I-5 玉電通学定期 上：昭和27(1952)年 東京都 村上久雄氏寄贈
中：昭和42(1967)年 東京都 常澤義雄氏蔵
下：昭和43(1968)年 東京都 常澤義雄氏蔵
- I-6 玉電デハ80形・200形模型 埼玉県 早船元峰氏蔵

II 新玉川線の誕生

昭和44(1969)年、玉電の廃止にともない、駒澤大学の通学手段は一時期、バスに変わりました。その後、昭和52年に地下鉄の新玉川線(現田園都市線)が開通し、駒澤大学の重要な交通手段のひとつとなりました。

当初、駒澤大学最寄の新玉川線の駅は、国道246号線真中交差点の地下に「駒沢公園」駅が計画されました。昭和44年から同46年まで本学の教職員・学生、地域住民が一丸となり、玉電の駒沢駅への駅設置を訴えました。残念なことに、この要求は退けられ、現在の場所に駅は設置されましたが、駅名は「駒沢大学」となりました。

このコーナーでは、バス通学や新玉川線「駒沢大学」駅誕生に関する資料や写真を紹介します。

【展示資料】

- II-1 駒沢大学駅設置の署名運動(渋谷駅前) 昭和44(1969)年
- II-2 渋谷―二子玉川園連絡バス(渋谷駅) 昭和45(1970)年
- II-3 新玉川線駒沢大学駅工事 昭和45(1970)年
- II-4 新玉川線開通記念パレード 昭和52(1977)年
- II-5 駒沢大学駅設置運動で使用された品々 昭和44―46(1969-71)年
- II-6 東急に対する請願書 昭和44(1969)年
- II-7 東急8500系模型 東京都 向山真彦氏蔵



駒沢大学駅設置署名運動(渋谷駅前)
昭和44(1969)年